# 令和４年度第２回東日本大震災津波伝承館運営協議会の開催結果

日時　令和４年 11 月 24 日（木）13 時 00 分～14 時 30 分
場所　国営追悼・祈念施設管理棟セミナールーム

## １　開会

里舘課長開会を宣言する。

## ２　藤澤副館長挨拶

本日は、ご多用のところ、お集まりいただきありがとうございます。

また、委員の皆様には、日頃から当館の運営にご協力いただき、感謝申し上げます。

本日は、今年度２回目の運営協議会となりますが、今年度の上半期の事業を中心に、ご報告申し上げ、皆様からご意見を頂戴したいと考えております。

当館の来館者数は、5 月以降、前年の同じ月を上回る状態が続いており、10 月末には累計 63 万人を達成しました。コロナ禍ではありますが、行動制限のない人の流れの影響を大きく受けているものと感じています。

週末や夏休みの時期などたくさんの方々に来館していただいておりますが、一方で、混んでいる時を避けて平日にじっくりとご覧になる方が最近では増えてきているなと感じており、平日の来館者数が昨年度よりも増えている要因の一つになっているものと思われます。

伝承館を取り巻く環境の変化としては、陸前高田市内の公共施設としては最後の復旧施設ということで、11 月 5 日に市立博物館が開館しました。市街地の中心部に立地していますので、博物館を目指して市内に来られる方も増えてくるものと思われますので、これを機に伝承館にも足を運んでいただけるよう、相乗効果を期待しているところです。

現在、新型コロナウィルスの感染状況が全国的に拡大傾向にありますが、引き続き感染予防対策をしっかりと講じ、来館者の皆様に安心してご来館いただけるように運営していきたいと思っています。

皆様には忌憚のないご意見をいただき、今後の運営に活かしていきたいと考えていますので、どうぞよろしくお願いします。

## ２　委員紹介

出席者名簿により、委員を紹介した。

## ３　議事　（１）「令和４年度東日本大震災津波伝承館の取組実績について」

事務局から説明した後、質疑を行った。質疑の内容は次のとおり。

（柴山委員）

前回の運営協議会が半年前に開催されたところだが、そこからの改善点を説明いただきたいこと。もう１点は、この館としての目的である、ゲートウェイとしての機能を果たしていかなければならないことに関し、どういう形でゲートウェイを推進していこうかという部分が、今回の報告からはあまり見えてこないなと思っております。

三陸 DMO とか、様々な団体で誘致するものや、やっていただいているものなどあるが、この館からの発信というものがなかなか出来ていないという印象がある。その様な部分を前回からどのように改善したかという、トータル的な話をしていただければありがたい。

（事務局）

前回の運営協議会の時も、ゲートウェイ機能に関するご意見を多くいただいたかと思います。

私共は、企画展示におきまして、出来るだけ当館に限らず三陸には沢山の震災伝承に関する活動、団体、資源というものがあるということを情報発信していくことが、当館のゲートウェイ機能として期待されているものの一つであろうと考えておりまして、企画展示の場で、例えば三陸各地の碑文でありますとか、震災伝承活動や施設などについて、しっかりと情報発信していく、或いは、教育普及事業の中でＶＲとか、キャッセン大船渡が提供する防災観光アドベンチャーゲームだとか、或いは、三県の伝承の担い手の方々が集まった意見交換など、これについてはインターネットでも情報は発信をしているところでありますが、この様な形で、まず三陸にはこういう伝承活動をやっている方がいらっしゃるということを、しっかりと情報発信をしていくことが、ゲートウェイの一つの機能発揮の仕方だと思っています。

それから、観光誘客の話がございました。こちらについては、私共もなかなか手を付けることが出来ていないところではありますが、まずは、当館とそれを取り巻く公園の受け入れ態勢の整備が一つであろうということで、これも先ほど資料の説明の中でもお話をいたしましたが、パークガイドと連携した形での受け入れ環境の充実ということに取組んでいくというところであります。

前回からの改善点として申し上げたいのは、前回と言いますか前々回のご発言だったかと思うのですが、資料の４ページに 47 都道府県からどれくらいの団体予約があるかということで、この数字の中で少ない都道府県、例えば九州地域とか中国、四国地域や関西圏など、こういったところから団体の方々中心に来ていただく方法としては、９ページでもご紹介したのですが、今年度に入りまして、首都圏以外でも中京地区とか九州地区の旅行代理店の方々に、こちらに来ていただいて、実際どういう施設なのか、或いは、ここに来ていただいたら、次どのような旅行展開が出来るのかということをイメージしていただくようなツアー等を、県の県外事務所等々と連携しながら取り組んだところでありますので、先ほど都道府県ごとに数字が少し足りないところについては、これ

から効果が見えてくるのではないかと考えております。

（松村委員）

避難訓練に関してですが、今回、県の総合防災訓練に合わせ、いつもと形を変えて実施し、20 分以内に気仙小学校まで避難できたということで、一連の流れで訓練出来たことは、とても良かったと思いました。

その避難訓練の成果と課題の部分をお聞きしたいということと。私も学校現場にいたときには消防署の方からの指導で、決まった形での訓練は、それはそれで良いのだけれども、そればっかりやっていると実践的な部分は欠けるので、いつ起きるかわからないことを想定し、子供たちには、日にちは伝えても時間は伝えないとか、何か少し変化のある形で行ってきた。学校だと失敗しないように、とにかくきっちり決めてやるということは、見逃してしまう部分も多かった。まして、初めてのお客さんを連れて避難するというのは、とても難しいし、毎回大変だと思うのですが、企画する側で何か変化を持たせた形で、実践に少しでも近づけた形での訓練も、検討いただければと思う。ここの展示の中にも「実践に生きる」ということが何回か出てきますので、そこの部分を今後も大事に計画を立てていっていただきたいと思います。まずは成果と課題を教えていただきたい。

（事務局）

県の総合防災訓練と合同で実施いたしましたので、市内にはサイレンが鳴るなど、緊張感がある中でやれたこと。地震発生が 8 時 30 分、大津波警報が 8 時 33 分という 3 分後に警報が発令されて、そこから逃げるということで、館から外への誘導も 3 分以内に出来ましたし、大津波警報発令後に避難するということを一連でできたことが、大きな成果と思っております。

課題としましては、今回の訓練時刻が開館前ということもあり、普段見学されているような状況では無かったことから、お子様だとか、ご高齢者様がいる中で、どう避難させていったら良いのかなど、検討しながら訓練していかなければと思います。

今回は、県の総合防災訓練に合わせて訓練いたしましたので、次回については、開館中の伝承館だけでなく道の駅や公園にもお客様がいる状況で、どうスムーズに避難させていくかなど、今後、内容を検討していきたい。

（柴山委員）

先日、北朝鮮からのミサイル発射によりＪアラートが発令される事象があったが、その対応とミサイルに対するマニュアルが館で整備されているか。また、今回のような場合、どう対応していくのか。当然、陸前高田市が関係することと思うのですが、それらの対応をどうするのか。まずは、当日どうしたのかというところと、今後どうするかということを確認したい。

（事務局）
　Ｊアラートが発令されたのは確認しましたが、当県が対象地域では無かったことから、特に対応はしませんでした。対象地域を確認したうえで、当県への影響はないものと判断しました。
　また、マニュアルに関しては、ミサイルに特化したようなものはないので、ご指摘いただいたことを踏まえて検討していきたい。

（柴山委員）
　陸前高田市と協議しながら作っていければ良いと思います。

（木村委員）
　来館者数の件ですが、資料を確認するとゴールデンウィークには対前年比 1.4 倍などと来館者が増えている状況であり、伝承館の職員の方々の取組の結果と思いますので、敬意を表します。
　その中で、ゲートウェイとしての役割なのですが、色々な形で来ていただいた方々に県内各地をご紹介いただいているということですが、伝承館として、そういった情報発信は、限りがあると思うのですけども、前回の会議でもお話したのですが、このくらいの方々が陸前高田市の伝承館に来ていただいている。それを県内の観光施設や色々な所が自分の所に誘客するというか、そういった逆にそちら側からの努力というか、例えば、「こういった資料があるので、皆さんにご紹介出来ませんか。」など。そういったお話はあるものでしょうか。一方的にこちらの方から紹介するのではなくて、色々な所からそういった問い合わせが来るとか、そういった部分についてお聞きしたい。

（事務局）
　他の三陸の様々な団体、あるいは市町村から当館に対して、そういった引き合いがあるか、ということで言いますと、パンフレットとか広報資材を送っていただく等のご協力はいただいております。また、先ほど申し上げた企画展示についても、この様な企画展示をしたいのですが、と言うことで情報提供をお願いして、それに対して積極的にご協力をいただいている状況はございます。
　一方で、委員からご指摘のあったような、より積極的なお話は、いただけていないところですが、当館としてももう少し働きかけをしながら、どういった形で三陸の色々な各地の方々と連携関係を深めていけるのかというところについては、課題認識としては持っているところであります。

（木村委員）
　ゲートウェイとしての役割については、こちらの方からいろいろな所を紹介するだけではなくて、情報を吸い上げながら利用していただくという取組が大事だと思います。
　もう１点ですが、かなりの人が陸前高田市にいらしている。陸前高田市にはホテルの

計画があるということで、ホテルが出来て宿泊者が増えてくると、一人勝ちというか、そういった懸念があるというような内容の記載（前回）があったと思うのですが、実際、陸前高田に人が来ても、このとおり宿泊場所が不足していることから、一人勝ちということは全然なくて、逆に周辺の市町村の方に人が流れて行って、そちらの方が潤っている。という現状で、陸前高田市としては、宿泊を取っていただくお客様を増やすことが悲願となっておりまして、そのことによって市内が潤っていけるような取組を観光物産協会も行っていきたいので、よろしくお願いしたい。

（事務局）
今のお話のとおりゲートウェイの役割というのは、大きく２つあると思っておりまして、伝承館や公園に来ていただいた方々が、岩手県内、あるいは宮城県に行くというのも一つあるのですけれども、それよりも、ここに来た方々が陸前高田市内の観光施設であったり食であったりというところに流れていただけるというのが、最初かなと思っておりまして、陸前高田市内ですと、先般市の博物館が開館しましたので、そういったところとも情報共有しながら、こちらに来た方があちらに流れる。或いは市中心部に来た方がこちらに来ていただけるような、しっかりした仕組みづくりを観光協会さんとか、市の課長さんも来ていただいておりますけれども、よりよい方向に行ければと思っております。

（木村委員）
私は店をやっておりますけれども、他から来た方々が、こちらに寄られてうちで買い物をしていかれる方々がいる。その方々から「非常に考えさせられました。」とか、「丁寧にご説明いただきました。」とか、そういった声が結構多いですし、逆にうちに来て、まだこちらを見ていない方がいた場合は、是非見ていってくださいと言っている。そういった連携が大事だし、有意義だと思っておりますので、今後ともよろしくお願いします。

（工藤委員）
11 月３日に行われた、市立博物館の開館記念式典に出席させていただきました。
非常に立派な博物館で、開館出来て本当に良かったと感じております。
その際に、屋上に上らせていただきまして、海の方を見ますとこの施設がよく見える。市街地と伝承館との連携があれば非常に良いのだろうなと見て感じました。
資料７ページから８ページにある教育普及事業について、確認したい部分がありまして、様々なセミナーを開催し、色々な取組をされているなと感じました。オンライン展示解説等も行っており、様々なニーズに対応した取組をされていると、見させていただきました。そこで一つ思ったのは、情報発信の関係で、津波の伝承を行っていく、将来につなげていくというような取組の中で、例えば博物館では、日曜講座という講座をやっておりまして、様々なテーマで定期的に開催しているところですが、その様な色々な

テーマでやっておりますので、興味のある方が多数来ていただくこともあります。例えば、震災に関する講演とか講話などを定期的に開催しているかどうか、或いは必要性を感じているかという所と、オンライン展示解説のやり方についてご紹介いただきたい。

（事務局）

定期的な震災津波に関する講習会等を行っているかということですが、今のところ実施が出来ていない状況であります。当館の場合は、来館予約いただいている団体様に毎日のように展示解説をする形にしておりまして、不特定多数の方に対して定期的に展示解説をするというようなことは行っておりませんが、かつて開館直後くらいの時に、解説員が一般来館者の方に向けて、当館の常設展示を解説するということをやった記録は残っておりますので、その様なことがこれから定期的に出来ないかということについては、通常の施設の運営を勘案しながら検討していきたいと思っております。

それから、オンラインの展示解説の実施方法ですが、昨年度から実施しているところですが、お申し込みのあった団体の方で機材と撮影スタッフをご用意いただいて、お申し込みをいただいた団体が我々の解説を撮影する形で実施してきたところですが、名古屋市の万場小学校につきましては、あらかじめ撮影した動画をまず流して、その後それに対する質疑応答をオンラインのライブで行う格好で実施したもの。

（伊藤委員）

来館者の状況の部分ですが、次回以降リピート数を追加していただきたい。

リピートしている小学校何件、企業何件というのが分かれば、例えば企業が 10 件から 5 件に減りました。となった場合、5 件が何で来なかったか。一回くればいいと思っているのかなど、リピート数が分かれば戦略とか立てやすくなると思います。

それから、企画展示等の報告をいただいているが、長期的に見て先ほど言ったリピートを増やそうとしているのか、新規の来館者数を増やそうとしているのか、いまいち分からない部分があった。人口は上限があり、日本国だと１億２千万人いて、その内 63 万人が来て、その人たちがリピートしなかったら、どんどん来館者数は減っていくこととなる。そうなってくると、継続的に来ていただくような仕組みを作らなければならないという時に、展示会を継続的に行っていくのもいいが、伝承館自体をしっかりとした企画をして、来ていただけるようにしなければならないのではないか。継続的に来ていただくためには、新規だと限界があるなと思っているので、リピート者を増やすような取組を、今後何かあるのかどうか伺います。

（事務局）

企画展示に絡んだ誘客ということと、併せて継続的な誘客に向けての取組についてのお尋ねだと思いますが、企画展示をやっていくことが必ずしも誘客に繋がっていないのでは、とのご指摘であったと思いますが、私共もこの企画展示については、どちらかというと当館のマーケティングの視点と言うより、効果的な震災、津波に関する学びの場

を設けることで、さらにそれが三陸全体の震災の学びの場に関する情報発信になればいいという考えのもとに、当館のマーケティングというよりは、もう少し広い形でのマーケティングを背景に持ちながら、企画展示を実施しているものであります。

継続的な誘客促進についてですが、一つありますのは、学校の方々のご利用です。これについては、教員現地研修会のような形で９ページの２の⑵に書かれていますけれども、今年度で３年目の実施となりました。今年度からは、野外活動センターと連携して、もう少し広い形で、近隣の施設と連携しながら震災防災学習プログラムの紹介を行ってきたところであります。昨年度に参加していただいた学校が 28 校ございましたが、この内 13 校からは、新規にご来館をいただいているという状況もございます。このような形で実際、学校の先生方に現地に来ていただいて、どの様な見学ができるのか具体的にイメージしていただいて、イメージしながら検討いただくことは、学校の利用促進に非常に有用なツールだと思うことから、来年度以降も実施してきたいと考えております。

（伊藤委員）

28 校は県内か県外か

（事務局）

主に県内です。

県外の学校の対応ですが、どの様な実施方法が良いか考えていかなければならないと思っておりまして、例えばマルゴト陸前高田さんの方でも、色々プロモーション活動をしていただいていると思いますので、連携を取りながら内容を検討していきたいと思っております。

今申し上げたのは、どちらかと言うと新たな開拓の方になります。学校のリピーターという意味では、来ていただいた学校には、全て後日アンケートを取っていますので、その中で良かった点、悪かった点などを文面的に確認しておりますし、特に来ていただいたときのおもてなしを大切にしておりますので、引率の先生、あるいはその学校に付いてくるガイドさん、こういった方々に直接、来ていただいたときにコミュニケーションを取ってお話を聞くことにより、例えば、見学時間の長さの問題とか、あるいはパークガイドさんとの連携の話だとか、学校については次の年も同じ学年に来てもらえるように、先生方とのコミュニケーションも大切にして対応しているところです。

（伊藤委員）

アンケートを取っているとの話を伺ったが、可能であれば次回アンケートの中身を共有していただけるとありがたいです。

（事務局）

了解

（高橋委員）
私も来館者数のところですが、16 万 8 千人ということで、このまま行くと 30 万人くらいと推測しますと、昨年４月に私がここでご説明を受けたときに、初年度 30 万人くらいとの説明を受けた記憶があって、そういったところに戻りつつあるのかなと思ってうれしく思っておりました。
その中で、資料の４ページのところに団体予約がありまして、先ほどからの話にもありますが、今回東京都の団体が 387 件ということで、非常に多くなっているなと、令和２年度の実績だとそんなに多くなかったんじゃないかなと、岩手県が多い状況だったかと思うのですが、下の方の表を見ますと観光ツアーで 320 件あるということなので、ほとんど観光ツアーで来てらっしゃるとお見受けしております。大きな会社がすごい人数を入れてきた特異的な数字なのか、その様な観光ツアーが次々に入ってきたのか、実感で結構ですので、教えていただければ、我々としても首都圏へのＰＲというところの大きな材料になるのかなと思っております。
先ほど、木村委員からお話がありましたように、ここのお客様を関係の観光団体が獲得していかなければならないというのは、そのとおりだと思っておりまして、私たちの方でも、今年三陸観光フォーラムというのを宮古で 10 月末に開催しましたけれども、伝承館の解説員の方に来ていただいて、ジオパークという広い中での復興ということと、みちのく潮風トレイルに関わっている方、観光に関わっている方の３者の方にお話を聞いて、フォーラムであるということも企画して、発信と言いますか伝承館を組み入れたような形の三陸観光をどういう風にしていったらよいかということも行っております。少しずつ広げていきたいと思っておりまして、先ほどの件参考にしていきたいと思っております。

（事務局）
東京発の団体のお客様の動向についてのお尋ねがございました。
どこが何件というデータが（手元に）無いのですが、一番多いのはクラブツーリズムさんです。あとはＪＴＢメディアリテーリングさんが、多く送客していただいているようです。４ページ３番の中では 387 件のご予約を今年度いただいたところでありますが、昨年度は 171 件の実績がございまして、大幅に増えている状況にありまして、これは、行動制限が緩和されたということに伴っての、人の流れが戻ってきているということは、現場においても体感として実感しているところであります。

（高橋委員）
昨年３月までの年間の数字が百数十件ということで、かなり増えたと思っており、全国支援が始まったのが後半ですので、前半それでもずいぶん空気が変わってきたのかなと、今のお話を聞いて納得いたしました。
ちなみに岩手県が観光ツアーで上位にあったと思うのですが、県内の観光ツアーは

11 件にも満たないということで、県内の観光ツアーが逆に少なくなっているのでしょうか。

（事務局）
　県内の状況ですが、例えばクラブツーリズムさんのような募集型のツアーというよりは、旅行会社さんがアテンドする形で色々な企業等をご案内いただいているというような状況がございますので、そういった意味では、研修が増えているところでございまして、区分の取り方になりますが、旅行会社が間に入っているような団体様は増加傾向にあります。それを、観光ツアーととらえると、増えている状況にございます。

　委員の皆様には誤解の無いように見ていただきたいのですが、4ページの上の都道府県別の団体予約件数でありますが、例えば、観光ツアーの場合ですと、東京 387 件とあるのですが、これは東京発着のツアーというイメージが入っておりまして、例えば、埼玉の人、神奈川の人、千葉の人が、一般的に旅行に行くというと東京の旅行代理店に申し込んで東京駅発着とか、愛知県とか大阪府なども名古屋発着とか大阪発着というイメージですので、実際は愛知であれば三重とか岐阜の方々も結構お見えになっていると思うし、大阪発着のツアーには兵庫とか京都とか滋賀など隣県の方々もお見えになっているということで、なかなか正確に都道府県ごとに反映されていないのは少しあるのですが、そこが、首都圏の周辺が少ないというようなイメージではないということをご理解願います。

（柴山委員）
　この表を見る限りでは、四国と九州があまり来ていないので、今後宣伝をちゃんとしていって、特に南海トラフの影響が大きい地域であるので、そういったところで防災学習というものを伝えていかなければいけないというところがあると思います。
　最後の 11 ページに書いてあるのですが、目標とかミッション・ステートメントとかあるのですけれど、ここに何人来るといったＫＰＩ目標が、もともと今このコロナ禍の中で存在しないので、先ほどのリピーターの話とかに繋がってきている。単純計算するとこの間のゴールデンウィークに 3,352 人来たというところで、それが多分限界ぎりぎりの事故が起こらない程度のところが 3,000 人が多分限界だろうと考えて、3,000 人×360 日かけると大体年間 100 万人キャパ的には来られるというのが計算上はでる。勿論ゴールデンウィークのような入込が続くと思わないので、半分としても 50 万人はキャパ的には来られるのかなと思っております。年間どれくらい誘致したらよいか、というものを館として目標を持った方が、宣伝をこういう風にやっていかなければならないのだ、というところも出てくると思うので、ＫＰＩを改めて立てていただけるとありがたいかなとは思っております。
　この館が出来たのがコロナ直前でしたので、その後ずっとコロナ禍が続いているのもあって、本来ならもう 100 万人は超えているはずだと思っているので、年間目標をしっ

かり立てながらコロナが終わった後でもどれくらい来て、それが陸前高田市街地にこれぐらいの人が来て、その後他のところにもこれ位行っているというところが、なるべく見られるようにしていくと、ここはゲートウェイとして動いているのだなとわかると思いますので、ご検討願います。

（松村委員）
小中高校は、高校は特に県外も多くいらしているようだが、地元はどうか。
高田高校や大船渡高校とのかかわりということをあまり聞いたことが無かったので、地元の将来を担う高校生とのかかわりがどうなのか教えていただきたい。
もう１点は、大きな施設、当館や博物館、ワタミさんやサロンドロワイヤルさんとか、今度は吉田家が出来るので、大きな施設を利用した学習旅行の誘致の形で、みんなで見て小中学校の自主研修をよくやるところなので、大きなところをみんなで見学した後で、例えば市や観光協会と連携を取りながら、防災学習をテーマにした自主研修というのも面白いのではないかと思います。
例えばその時に高台に移転して、個人のお店が随分出来てきているので、自主研修で子供たちが回って、どこかの店の復興の様子だとか、お客様は震災前に比べてどうかなど、いろんな話を直接個人のお店にお邪魔して、いろんなお話を聞いて研修を積むというのも、凄く良いことではないかと思いました。
震災前は、陸前高田市はいろんな学校から自主研修に訪れていただいた地域なので、規模的にも凄くやりやすいという話を聞いたことがあったので、そういった形で新たに先生方の研修とか、事業所とか県主催の研修で、市と連携してこの様なことが出来ますよというアピールをすると、継続的に毎年また来ようという形に繋がるのではないかと思いました。

（事務局）
今年度に入り特に地元の小中学校の団体見学が目に見えて増えてきたと思います。
中には、シアターをご視聴されていると、顔を覆って出てくるような生徒さんもいらしたりするのですけれども。そういう中でも地元の方々も震災 11 年経過して、改めて震災学習ということに目を向け始めようとする傾向があるということは実感しております。
高校の関係ですけれども、今年度においては高田高校、大船渡高校とも来館いただいております。

（松村委員）
街づくりとか少し大きい意味で、高校生の意見や考えも活かせる形だとすごく良いなと思います。

（総括　南会長）

今日お伺いしていて、日頃地道なことを続けておられることが印象的で、それが基盤になっているのであろうと思います。

解説員が、三陸フォーラムなどに出て行って、役割を果たしていることですとか、解説員自体の資質の向上、避難訓練や企画展示を地道にやっておられることなどが、この伝承館の基盤であり、信頼性を高めていることと思います。

このような地道なことを、あまりアピールすることではないと思われるかもしれませんが、この様な取組が大切だと思います。

そのうえで、基盤の所を切り盛りするだけで、まとめていただいている部分だけでも、伝承館としての業務としては、一杯いっぱいなのではないかと推察しますが、更に今日出たお話というのは、委員がおっしゃいましたとおり、他の施設からちょっとした申し込みが有るか無いかで、こんなことをやってくれないかとか、情報提供や、その様な他と連携などについて、この館で背負おうとしたら、今の現状、頑張っていただいているようにお見受けしますので、そんなに頑張らなくても他と良い連係が組めれば、繋がっていける部分がきっと出てくるでしょうし、そのヒントを今日いただいたような気がします。

観光等についても、市内ネットワークは、博物館との連携も持っているでしょうし、学校や地元の高校も来ているということなので、そことの街づくりの広がりみたいなことをテーマにしてもらえたらいいと思いますが、伝承館としてどこまでコントロールできるかとなると、限界と言うか、出来るところと出来ないところがあると思いますので、その部分をうまく周りの力が動いてくれて、この伝承館がゲートウェイのコアになるような運び方がこれから求められる気がしますし、その様な方向になるのではないかと思います。

逆にと言いますか、しっかりしたことをやっていくことが大事だと思いますし、企画展示を学びを中心にやっていただいているという話もありましたが、集客というよりも学びを中心とした、基盤のしっかりとした情報発信をやっているということが、伝承館としての存在意義に大きな部分でしょうし、解説員のクオリティーが、その中でちゃんとした案内をしていただけることが、この伝承館の基盤のところだと思う。

それを積み上げていただきながら運営していることが素晴らしいことだと思うし、今日話があった外部との関わりについて、伝承館でコントロールと言うかマネジメントしようとしすぎるのは難しいと思うので、外の人の力をうまく借りられるようなマネジメントの仕方をどうやって行くかを、仕組みとして作っていけたらいいと思います。

どういうことがヒントになるか、それぞれの主体がありますから、その方たちからの働きかけがあるように持っていけたらいいと思いますし、そのための情報提供が必要になるという印象を持たせてもらいました。

お時間が少しあるようなので、その他ございますか。

（柴山委員）
今年に入ってテレビとか機器が壊れる事例が頻発し、ゾーン３のテレビが並んでいるところも全部壊れた。機器は壊れるものなのでしょうがないと思いますが、壊れたところで来ていただいたお客様は、それが見れない状況が起きてしまうことが勿体ないと思うので、バックアップとか、機器が一つに１個しかないところが問題点であり、すぐ取り換えることも出来ないし、停止期間が長くなるという問題点もあるので、改善していただきたいと思います。
なるべく同じような形で同じような物を見れるような状況ということを作っていく必要があると思っております。
今もエントランス部分のディスプレイが壊れてしまっているので、どの様にして代替を用意するとか、要望を出せるようにするとか、常に考えて、来ていた方に満足していただく、またそういった学びというものを同じように提供出来るようにしていただければと思います。

（議長）
その他ございますでしょうか。
無いようですので、議事の（２）、その他ということで、各委員から何かございましたらお願いします。

無いようなので議事は以上となります。ご協力誠にありがとうございました。

（藤澤副館長）
委員の皆様には、お忙しい中ご出席いただきまして、ご審議いただき誠にありがとうございます。
先ほど南会長からお話があったとおり、様々な関係機関との連携を深めていくということは、これからの課題となってくると思っておりますけども、まずは皆様には委員としてご意見を頂戴しておりますが、日頃から委員の皆様や所属する団体様と連携を取らせていただいているので、その部分を強化していくことによって、更に今日皆様から頂いた課題等を解決しながら、集客等を深められるのではないかと考えております。
木村委員からお話がありましたので、是非とも市の観光物産協会とも連携させてもらいながら、来た方々が満足の高い陸前高田の訪問になれるような仕組みづくり的な物を構築できればなと思いますので、引き続きご支援、ご指導をお願いしたいと思います。
今年度の開催につきましては、これで終了となります。
皆さんからいただいたご意見を次回、次年度となりますけれども、それまでに様々取組んで参りたいと思いますので、ご協力くださいますようお願いします。

（閉会）
里舘課長閉会を宣言する